

エルサルバドル・ニカラグア技術協力

建築研究部長 西山 功



(キーワード) エルサルバドル、ニカラグア、技術協力、低所得者向け住宅、耐震技術

1. はじめに

「津波」(Tsunami)「砂防」(Sabo)が英語として当たり前に使われていることは、ご存じだろうか。今、日本の技術協力を通じて、「耐震」(Taishin)という言葉が、スペイン語になろうとしている。

2. エルサルバドルにおける技術協力

2001年1月のエルサルバドル地震(死者約3000人)では、低所得者層の住宅が大きな被害を受け、2003年12月から5か年間のJICA技術協力「耐震普及住宅の建築普及技術改善プロジェクト」が実施された。エルサルバドルでは、マスコミでも「TAISHINプロジェクト」として取り上げられている。

途上国に多い泥を屋外で乾して固めたれんがを用いるアドベ造や土とセメントを混ぜて固めて焼成しないソイルセメント造など環境負荷をできるだけ増やさずに耐震強化する実験研究プロジェクトである。現在は、法令化、全国展開による普及促進のための後続するプロジェクトが行われている。

プロジェクトはとても順調で、建築研究所・国際地震工学研修で専門知識を徹底的にたたき込まれた元研修生がプロジェクトのキーパーソンとなり、また、南南協力としてメキシコ人専門家(やはり元研修生)が側方からも指導してくれている。

3. ニカラグアにおける技術協力

1972年のマナグア地震(死者約5000人)では市中心部の大部分が破壊され、現在もその地区の復興の目途はたっておらず、その後も地震が頻発しており、TAISHINプロジェクトの成果を踏

まえた「地震に強い住居建設技術改善プロジェクト」がJICA技術協力として2010年10月より開始されている。これは、現地の建設資材を考慮して、低所得者にも入手可能な耐震性のある住宅建設技術の開発が目的である。

2010年12月に現地を訪れた際、安価に調達できる軽石をコンクリート骨材として用い、より低コストの住居を提供するのが現地の真の要望であることが鮮明となったため、それに応える技術支援をしたいと考えている。

先方にはエルサルバドルの場合のような元研修生がいない、建築生産には詳しいが建築構造には明るくない、日本人長期専門家が派遣されていない上、技術支援のハブとなる現地JICA事務所に専門的知識のあるスタッフがいらないなどの難しさはあるが、TAISHINプロジェクトを通して成長した近隣国エルサルバドルのスタッフに、今度は指導者としての役割を担ってもらおうこととしている。

4. おわりに

エルサルバドルでは、プロジェクトの中心として、また、メキシコからの指導者として、日本で専門知識を身につけた元研修生が活躍している。さらに、TAISHINプロジェクトを通して成長したエルサルバドルのスタッフが今度はニカラグアのプロジェクトの指導者となるなど技術支援の輪がどんどん広がってきている。

エルサルバドルのプロジェクトサイト(<http://taishin.mop.gob.sv/>)には、中南米だけでなく、北米、ヨーロッパの先進国からもアクセスが多いという。ぜひ、一度アクセスしていただければ幸いである。